

令和5年度第3回地域包括ケアシステム検討委員会次第

日時 令和6年2月14日(水)

10:00~11:30

場所 高梁市役所 3階大会議室1

欠席 村上委員、平松委員

1. 開 会 (進行: 森本)

2. あいさつ (山根委員長)

令和5年度は地域の足について考えた。次年度に向けての評価・課題について話し合いたい。

3. 協議事項

(1) 令和5年度地域包括支援センター事業実施状況について(報告)

①通所型サービスB及び通所付添サポート事業(P4~P7)

・運営を担うボランティアの高齢化も進み人材の確保が課題となっている。

・定年退職した人に声掛けして新たなボランティアの確保を行っている。

→試験運転をされた方の感想はどうか

・ミニディサービス事業に携わっている方だったので、スムーズに試運転ができた。

②地域介護予防活動支援事業(元気なからだづくり隊)(P8~P9)

・新たに備中町で活動するグループが1団体増えて22グループが活動している。

・3月のグループ交流会では、運動効果の説明を予定している

→活動人数が80名程度減っている原因は何だと思うか

・運転免許の返納により通うことが難しくなったことと、気力・体力の落ち込みにより参加ができなくなったことが考えられる。

③生活支援体制整備事業(P10~P14)

・各地区で移動手段に関する社会資源が異なり、個人の能力や環境で困りごと異なる。

・各地区の地域資源を知らない人も多いため、地域資源を周知する必要がある。

・いきいき生活サポート事業の修了登録者は23名いるが、実際に活動しているのは7名となっている。

→ちょっとサービスの終了に向けて対応を教えてください

・現在利用視されている方の7人に訪問して意向確認をする。軽度の利用者は草取りの需要が多い。同じ人に来てほしいという希望もある。草取りはいきいき生活サポート事業の対象ではなくシルバー人材センターでの対応としている。

④介護サービス実施適正化事業(P15)

- ・高梁市内のケアマネジャーを対象に専門的知識の取得及び自立支援に資するケアマネジメントの視点を磨くために計3回研修会を実施した。

(2) グループワーク・意見交換

- ・足の問題について、第1・2回委員会の総括と委員会で出た意見のまとめ
高梁市の共通課題として、地区によつて社会資源がちがう。14地区それぞれの課題に取り組むことが必要。目的によっては解決できる。
もっと地域の困りごとを知って、地域の支援者とつながる。
 - ① 各地域の情報や支援サービスを整理し、周知する。
 - ② 移動販売ルートなどの調整
 - ③ 通所付き添いサポート事業をすすめる
 - ④ 地域でうまくいっている事例や工夫を共有する
 - ⑤ 地域の今ある支援やサービスをなくさない

地区の活動紹介（話題提供：2例）（P16～P24）

・日名地区

現在30人程度参加されている日名ふれあいカフェにもっとたくさんの方が参加してほしい→チラシが必要→日名の足の手段とつどいの場を紹介するチラシを世話人と支援者で作成

・備中地区

従来あった社会資源マップに、ケアマネが個別の生活支援のために地域の社会資源をもっと知りたい。→支援者でマップの修正をする→民生委員は「自分の担当地域に通いの場が少ない。何とかしないと」という気付きがでる

- ・成羽町日名地区及び備中地区において活用できる地域資源をまとめたチラシを関係団体と地域住民と話し合いにより作成した。チラシの活用方法や追加した方がいい内容等について協議した。

〈1グループ〉

①活動の感想・今後の展開に向けての意見等

（日名地区）

- ・的がしぼってあって良かった。
- ・外出できない人の理由を分析して、選択肢を増やすことが大切。
- ・タクシーチケットの対象が現時点では限定されており、対象を誤解する可能性があるのでチラシに明記する。

（備中地区）

- ・全体の把握ができており情報量が多い。
- ・情報が多いので全体版と各地区ごとのバージョンがあればいいのでは。

②次年度の検討事項について

- ・集約された5つの課題がでた。足の問題をもう少し細かく掘り下げる。

- ・タクシーチケット制度、移送サービス制度の対象者について検討する。

〈2グループ〉

①活動の感想・今後の展開に向けての意見等

（両地区）

- ・チラシを作成しているの見える化できており良かったと思う。
- ・キビケーブル等の別の媒体を活用して周知できればいいのではないか。

②次年度の検討事項について

- ・情報発信の仕方についての検討。
- ・地域の中で孤立化を防ぐ方法。
- ・次の担い手の育成、ボランティアの育成
- ・足の問題を発展させ行政への意見を提示する。

〈3グループ〉

①活動の感想・今後の展開に向けての意見等

（日名地区）

- ・目に留まりやすい情報が集約できている。
- ・情報が多いのでA4サイズのチラシではなくA3サイズで印刷して配布すればいいのではないか。
- ・戸別配布するのではなく地域住民が集まる場所で配布して意見をもらうのが望ましいと思う。

（備中地区）

- ・支援者同士で情報共有して内容を充実させることが大切。
- ・地域資源の見直しや更新作業が必要なので作りっぱなしにならないようにする。

②次年度の検討事項について

- ・実現可能なテーマを検討したい。
- ・ボランティアの育成
- ・成果物として役立つものが提示できるようなテーマ。
- ・足の問題は今後も続くので掘り下げればと思う。

〈まとめ：山根委員長〉

チラシとして地域資源が見える化できたことで地域住民が地域資源を共通認識できることが大切。地域住民と連携できたことで地域資源を集約できたと思う。現状維持だけでなく、問題解決に向けて情報発信・協働が重要となる。